

将棋の郷田真隆九段(54)が9日、東京・千駄ヶ谷の将棋会館で指された第84期名人戦・B級2組順位戦の対局に勝ち、史上13人目となる公式戦通算千勝を達成した。1990年のプロ入りから35年かけての達成。「いい節目になった。35年をかけて自分の将棋も成熟してきた。今後自分の持っているものを生かしていきたい」と喜びを語った。

(通口順)

郷田九段

郷田九段は東京出身で故大友九段門下。タイトル獲得数は通算6期。「いつの間にか時間がたってしまった」と振り返りつつ「将棋自体は若いころと変わらない気持ちで、ずっと最前線に向き合っている」と語った。印象深い勝利を問われると、デビューから3年後の第33期王位戦7番勝負(本荘主戦)の第6局で、当時の谷川浩一(現)と対戦した。第1局から第5局まで、郷田は負け、第6局で逆転した。第7局で郷田は勝利し、王位を獲得した。将棋を始めた「将棋時代」からの目標だ。

プロ入り35年 13人目

勝達成



た谷川さんとタイトル戦で対局できるのは予想もしていなかった。無敵で戦えたのが良かったと回顧した。晩年がひしめく世代にあっ

郷田真隆九段の通算千勝を達成した郷田真隆九段・東京都渋谷区の将棋会館で

で、羽生善治九段(54)や佐藤康光九段(55)、丸山忠久九段(54)、森内俊之九段(54)に続く千勝到達となった。「同世代の皆さんがいなければ自分

「自分の将棋も成熟」

の将棋が成熟することはあり得なかった。常に刺激になる存在で、引き続き切磋琢磨していかねば」と感謝を述べた。喜びを伝えたい相手について聞かれると、「将棋を教えてくれた父の墓前に報告したい」と感謝げに語った。

文化

音楽から探る 日韓の特別さ

音楽をテーマにした優れた書籍を表彰する「音楽本大賞」。第3回の今年は、北海道大学大学院教授の金成玖さん(49)＝写真＝の『日韓ポピュラー音楽史』(慶応義塾大学出版会)が受賞した。ポピュラー音楽を介して日韓の戦後史を俯瞰した野心的な一冊。どのような思いから生まれたのか、金さん取材した。(清水祐樹)

音楽本大賞『日韓ポピュラー音楽史』



金成玖『日韓ポピュラー音楽史』(慶応義塾大学出版会)

音楽本大賞は1年間に出版された本を対象。2023年、音楽関係の編集者有志が創設した。今回は、音楽評論家4人の選考委員が10冊ずつ選び、その中から会合で決定した。「データを揃え、読みやすい」と評した本書は、1960年代の韓国音楽事情から始まる。当時、65年には日本との国交が正常化した。この頃、韓国に「優色」(日本

著者・金成玖さんに聞く



的)とされた作品は放送禁止曲に指定された。大物歌手、李美子のヒット曲で、日本でも歌われた「トンベクアガシ」(韓語)も対象だった。日本のポピュラー音楽の全面開放は2004年までなかった。日本の大衆文化は、「植民地時代の遺産」や「文化的侵略」などとして排外されてきたが、実は「禁止の意識づけは曖昧だった」という。元々はワルで作曲をしていた金さんが関心を持ったのはそこだ。「なぜ禁してきたのか」と歴史を研究し始め、日本に留学。日本語でこうした書籍を出すまでになった。韓国では1980年代まで独裁的政治体制が続いた。金さ

さんは「日本文化を好きになっていいのではないかと、オーストラリアに最初の世代」と自認する。葛藤・対立もあった自傳を「社会、経済的な共通点が多々ある共同体的な関係」と捉え、「(専門分野である)音楽から読み解くことが重要だった」と語る。ただ、自身はクラシック畑の出身で、日本でも活躍する世界的指揮者チミン・ミンフンが「幼い頃のアイドルだった」と話す。なぜポピュラー音楽に注目したのか。キーワードは「大衆」だ。「政治も経済も人々が作り上げる。国を考える上で大衆の意見や感情は欠かせない」とい。大衆による音楽の共有には社会的な力が生まれると指摘する。

「ポップはポップに先ずいて80年代末に誕生し、90年代には定着する。従来の多様な韓国曲が、成長を続ける洋楽的なロックとポップスに絞られていった。バブル崩壊後の不況により、巨大に膨らんだ市場の「選り、集中」が進んだ結果でもある。世界では冷戦終結でグローバル化が進んでいくが、日本は国内市場の規模の大きさをめ、国外への視点を欠いたのだという。こうした指摘は、韓流ブームのよきな「巨匠」がなせなかったのかという問いへの答えにもつながり、興味深い。

一方、相対的な概念として誕生したKポップは2000年代には世界へと進出して成功していく。原因にはグローバル化の欲望、ヒップホップを本格的に導入するような拡張性の高さ、若者の「闘争的態度」を前面に出す感性などが挙げられる。日本でも大人気の7人組アイドルBTSは代表例だ。禁止されたながらも日本の影響を受け続けてきた韓国のポピュラー音楽。今では世界を席巻して韓国に渡る日本の若者も多い。韓国からの視点で、シニョップなど日本の昔の音楽が見直されるケースも出てきた。金さんは言う。「他者を通じて自分を認識することは多い。日韓はずっと相互に作用し、融合してきた特別な関係だ」



【書評】
■A・コ克蘭著「政治理論と動物」(みすず書房)
■桃崎有一郎著「中世武士の血脈」(文芸春秋)
■「名作」(講談社)
■「名作」(講談社)
■「名作」(講談社)
■「名作」(講談社)
■「名作」(講談社)
■「名作」(講談社)
■「名作」(講談社)
■「名作」(講談社)
■「名作」(講談社)

【著者の語る】「あの人の調べ方」ときき書局探訪」(空想書局)を刊行した文筆家・平山由子さんのインタビューです。お問い合わせは、お問い合わせ先まで。